

『第四回入江泰吉記念写真賞』『第四回なら PHOTO CONTEST』

受賞者が決定！

本市では2年に1度、写真文化の発信と新たな写真家の発掘を目的とするとともに、奈良の新たな魅力の発見につなげることをめざし、『入江泰吉記念写真賞』『なら PHOTO CONTEST』を開催しています。

今回は、令和2年6月1日から7月31日とコロナ禍での作品募集となりましたが、前回は上回る応募総数 666 点（入江泰吉記念写真賞、なら PHOTO CONTEST 合計）もの応募作品の中から受賞作品が決定しました。

■ 第四回入江泰吉記念写真賞受賞

いわなみ ゆき つむぎね
岩波 友紀「紡ぎ音」(99 枚組写真)

■ 第四回 なら PHOTO CONTEST

なら賞受賞 かわぐち じゅういち
川口 重一「新たなる季節」(3 枚組写真)

日本経済新聞社賞受賞 いぬい よしみ
乾井 義實「大きな樹の下」(3 枚組写真)

[今回のトピックス]

◆ 入江泰吉記念写真賞

- ・ 回を重ねる毎に、応募作品のレベルがアップしているとともに、今回はステイホームが呼びかけられる中で応募者はこれまでに創作してきた作品を改めて見つめ、自身の写真表現のさらなる高みを追求した結果であろう「質の高い作品」の応募が多くあった。
- ・ 「入江泰吉記念写真賞」自体の認知度も向上し、応募者数も増加傾向にあり、過去最高となった。「コロナにより生活や創作スタイルにもたらした変化を写真集にまとめあげ世に出したい」と、本賞に挑戦した応募者もあった。

前回 95 作品 → 今回 103 作品 (8 作品増加)

◆ なら PHOTO CONTEST

- ・ 認知度向上により奈良県外からの応募が増加。例年に比べ鹿を始めとした動物や微笑ましい家族の様子をおさめた作品が目立ったことから、癒しや和みを求めるコロナ禍の状況を反映するコンテストとなった。

前回 392 作品 → 今回 563 作品 (171 作品増加)

第四回入江泰吉記念写真賞

(趣旨) 自らの意識を超え「伝える」こと、歴史、文化、地域性へのこだわりが21世紀の重要なキーワードと考え、私たちの心に深く記憶される普遍的な生の眼差しを持った写真の作り手を支援していくため、未来そして世界に向けてのメッセージとして、第二回から「写真集」を製作しています。

いわなみ ゆ き つむぎ ね
岩波 友紀 (福島県大沼郡会津美里町在住・43歳) **「紡ぎ音」** (99枚組写真)

がれきが散乱している町の中を山車を動かす人たち。その姿に神聖なものまで感じ心を動かされた反面、身内を亡くし、家を失い、生活もままならないときに、どうして「祭り」をするのだろうかという疑問が湧きあがった。「復興」を目指して頑張る姿。そんな簡単なヒロイズムだけでは片付けられないものがあるのではないだろうか。その奥にあるものを、知りたくなった。(作品ステートメントより抜粋)



[プロフィール]



1977年1月長野県生まれ。早稲田大学第一文学部、武蔵野美術大学建築学科卒。
全国紙のスタッフフォトグラファーを経てフリーの写真家。現在福島県に在住し、東日本大震災と福島第一原発事故のその後の作品制作を続ける。

受賞歴 2014 Critical Mass Top 50

2017 Tokyo International Photography Competition

2017 DAYS 国際フォトジャーナリズム大賞 審査員特別賞

2017 NPPA ベストオブフォトジャーナリズム3位

写真展 2016「もう一度だけ／One last hug」ニコンサロン（銀座、大阪）

2019「Blue Persimmons」ニコンサロン（銀座、大阪）

[受賞コメント]

この度、入江泰吉記念写真賞をいただき大変光栄で嬉しく思います。審査員の方々、百々館長はじめ入江泰吉記念奈良市写真美術館の皆様感謝申し上げます。

生涯に渡って入江泰吉氏は文化への愛を元に写真を続けた写真家だと思います。本写真賞の募集要項に、「自らの意識を超え『伝える』こと、歴史、文化、地域性へのこだわり」とありました。私の応募作品は、東日本大震災で被害を受けた三陸、福島歴史、文化、地域性そのものに直結しています。その精神は東北のみならず、日本中、世界中に共感されうものと思っており、入江氏が写真を続けた奈良の地で、このようなご評価をいただいたことに深く意味があると思っております。

文化は、ただ人間が生きるだけ以上の意味を私たちに与えてくれていると思っています。それゆえに私たちがなぜ生きるかという根本の疑問にもつながっていると感じています。

写真家の創作活動、とりわけ写真集制作を取り巻く状況は今、本当に厳しくなっています。あと少しでぽきっと折れてしまう私の心を支えてくれ、これからの創作活動を続けていこうという意欲を後押ししてくれました。この度はありがとうございました。

[審査員選評]

いいざわ こうたろう
飯沢 耕太郎（写真評論家）

本年度の入江泰吉記念写真賞は、コロナ禍の最中の公募、審査ということで、どれくらいの出品者があるのか心配していた。にもかかわらず、結果的には微増ではあるが応募者の数が増え、内容的にも例年以上にレベルの高いものとなった。本賞に寄せる期待の大きさをあらためて感じるとともに、危機的な状況における写真家たちの底力を見ることができた。

さて、今回のグランプリを受賞した岩波友紀の「紡ぎ音」だが、二重の意味で重要な作品ではないかと思う。一つは2011年の東日本大震災から、ちょうど10年というタイミングでこの作品が成立したということ。もう一つは、これまでいくつかの賞を受賞し、個展を開催してきた彼にとって、区切りになる仕事になるということだ。被写体への向き合い方、過去・現在・未来を作品に取り込んでいこうという強い意志、表現意図とテクニックの融合、どれをとっても突き抜けている。写真集の出来栄が今から楽しみだ。

ありもと しんや
有元 伸也（写真家）

東日本大震災による津波や原発事故による被害とその復興、多くの日本人にとって重大であるテーマを扱いながら、どこかやわらかく軽やかな印象を作品から受けた。それは過ぎた年月や薄れゆく記憶によるところも大きいと思うのだが、祭りに参加する若者や少年少女の姿や表情からも強く感じて取れる。

私事ではあるが、1993年夏、写真学生だった頃、巨大地震による大津波で被害を受けた直後の奥尻島を撮影していた。そしてその18年後の慰霊祭に訪れたとき、そこに参加している震災当時は生まれてすらいなかった中学生たちの屈託ない笑顔から、驚きや違和感と同時に美しい光景だと感じたことを思い出す。

記憶の風化は果たして罪なのだろうか？ かつての風景が一変し記憶が薄れゆくとしても断ち切れない人の絆と伝統の強靱さ、負の感情は閉じ込めて未来志向で生きる姿。まだ課題も多く残るであろう復興のさなかにおいて、岩波友紀さんの作品は一筋の光明のように眩しく差し込む。

東日本大震災の被災地を丁寧に撮り続けている岩波友紀さんの写真は、被災地にこんなにも多くの祭があることを教えてくれます。祭とともに生きてきた歴史と文化がそこにある証しでもあります。津波に流されたまちでは、ふるさとの風景はすっかり変わってしまいました。それでも祭があるからこそ人々が集い、アイデンティティを再確認しているように感じます。さらには震災で失った尊い人たちの魂との再会をはたしているのではと思わせます。

気負わず自然体で被写体に向き合う、写真からにじみ出る風合いがまた独特です。優れたドキュメンタリーであるとともに、本賞にふさわしい作品といえます。

東日本大震災から10年。今後も東北の地を歩き、岩波さんらしい視点で記録し続けていってくださることを期待します。

ど じゅんじ
百々 俊二（写真家、入江泰吉記念奈良市写真美術館館長）

新型コロナウイルス感染症の蔓延により当館は4月から2ヶ月間休館に追い込まれていた。このような時期に入江賞の公募を実施するのが妥当なのか判断に迷った。結果的に杞憂だった。103点の応募があった。準備してくださっていたのだ。

家族の成長記録であったり、自宅周辺の自然や散歩道であったり、写真を撮ることでの自己確認、新しい発見の小さな旅、コロナの時代の今だからこそ写真表現の有効性を多く感じる事ができた。

入江泰吉記念写真賞受賞作品の岩波友紀さんの「紡ぎ音」は東日本大震災の被災地である福島県から岩手県までの太平洋沿岸の街々の祭りの写真群である。その眼は、のびやかに、しなやかに死者の生涯の地に留まるといふ魂と、寄り添うように帰る地を探す巡礼のように感じた。

多くの方々に本気で届けたい作品と思った。

写真集製作を応援くださるサポーターを募集！

本賞に名を冠する写真家・入江泰吉が1冊の写真集出版を機に一躍有名となったことにちなみ、写真集を限定1,000部製作します。受賞者にとってこれが写真家としてさらなる飛躍のきっかけとなることを期待し、皆さまからご支援をいただきたくサポーターを募集しています。

プレミアムサポーター（支援額10,000円）

特典：写真集に個人名を記載

写真集（販売価格4,000円＋税予定）1冊贈呈

入江泰吉記念奈良市写真美術館年間パス（2,500円相当）贈呈

サポーター（支援額5,000円）

特典：写真集（販売価格4,000円＋税予定）1冊贈呈

同賞受賞作品展覧会観覧券（ペア）贈呈（500円相当）



申込方法

名前、住所、連絡先（電話番号、メールアドレス）、年齢、性別、サポーター区分を明記いただき、Eメール、郵送、FAXいずれかにて下記へお送りください。

入江泰吉記念奈良市写真美術館 宛

- ・メールアドレス：naracmp@kcn.ne.jp
- ・住所：〒630-8301 奈良市高畑町 600-1
- ・FAX：0742-22-9722

第四回なら PHOTO CONTEST 一般の部

(趣旨) 写真文化の発展をめざし、老若男女だれもが気軽に参加できる写真コンテストとして開催しています。多くの写真愛好家が実際に奈良へ来て、独自の視点と発想、多彩な表現法で写真にいただき、奈良の新たな魅力の発見につなげます。

なら賞 ^{かわぐち}川口 ^{じゅういち}重一 (京都府宇治市在住・75歳) 「新たなる季節」(3枚組写真)



審査員 飯沢 耕太郎

クローズアップで、鹿たちの生命力の輝きをしっかりととらえています。他の作品も力作、意欲作が多く、前回と比較してもレベルはかなり上がっていると思います。最終的には24点が入賞しましたが、決め手になったのはプリントの良し悪しでした。仕上げまできちんとチェックすることが大事になります。(総評より抜粋)

日本経済新聞社賞 ^{いぬい}乾井 ^{よしみ}義實 (奈良市在住・78歳) 「大きな樹の下」(3枚組写真)



審査員 剣持 常幸

平城宮跡歴史公園の大樹の下で楽器の練習をしたり、スマホを見て会話を楽しんだりする若者たちの姿が心を和ませてくれます。観光をテーマにした応募が多い中で、何気ない日常の風景をとらえた作品が光って見えました。緑の中で奏でる音楽はどんな音色だったのでしょうか。想像力がかき立てられる写真です。

入選 22作品 全入選作品は公式ウェブサイトに掲載しています



※学生の部は受賞作品展(会期:令和3年2月20日(土)~3月28日(日))にて一般観覧者による投票を行い、受賞者を決定します。

今後のスケジュール

サポーター募集	～12月25日（金）
入江泰吉記念写真賞受賞作品写真集製作	～令和3年2月
授賞式	令和3年2月19日（金）予定
受賞作品展覧会 （会場 入江泰吉記念奈良市写真美術館）	令和3年2月20日（土）～3月28日（日）
写真集発行日（発売日）	令和3年2月19日（金）限定1,000部

事業費 ※2か年合計／令和元年度（準備年）決算、令和2年度（開催年）予算（単位：千円）

	内容	事業費	財源
事業費	第三回巡回展	195	奈良市負担金 5,682 （内文化庁補助金1,448千円） 協賛金 2,500 サポーター寄付金（目標） 500 写真集販売収入 1,009 事業収入繰越 748
	受賞写真集製作	4,767	
	受賞作品展覧会	1,109	
	式典その他	1,028	
広報費	募集要項、ポスター印刷 広告料など	2,122	
事務局経費		1,218	
合計		10,439	

第四回入江泰吉記念写真賞、第四回なら PHOTO CONTEST 応募者集計

	第四回入江泰吉記念写真賞	第四回 なら PHOTO CONTEST	
		一般の部※一人5作品まで応募可	学生の部（小中の部、高校の部合計）
応募者数	103人	202人	76人
男性／女性	67人／36人	164人／38人	28人／48人
平均年齢	45.14歳	59.71歳	—
最年長／最年少	84歳／20歳	89歳	—
応募数の多い都道府県	①東京都 33人 ②大阪府 12人	①奈良県 88人 ②大阪府 39人	—
特徴	・徐々に若齢化（前回平均年齢47.14歳） ・奈良県内からの応募が減少（20人→4人） ・東京都からの応募が増加（18人→33人）	・奈良県外からの応募が増加（51人→114人）	・今回新設

主催 入江泰吉記念写真賞実行委員会／共催 奈良市、一般財団法人奈良市総合財団／入江泰吉記念奈良市写真美術館
後援 奈良県、奈良県教育委員会、奈良市教育委員会、一般財団法人奈良県ビジュアルビューロー、
公益社団法人奈良市観光協会、一般社団法人橿原市観光協会
特別協力 日本経済新聞社



令和2年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

